

<h1 style="font-size: 2em;">指導資料</h1> <p style="font-size: 1.2em; margin-top: 10px;"> 鹿児島県総合教育センター 平成30年10月発行 </p>	<h1 style="font-size: 2em;">外国語 第87号</h1>	
	対象校種	高等学校 特別支援学校

英語による発信力の育成を図る 4技能統合型の授業実践

平成30年3月に新高等学校学習指導要領が公示された。「英語コミュニケーション」Ⅰ～Ⅲでは、複数の領域を結び付けて行う統合的な言語活動が、現行学習指導要領よりも一層強調されている。そこで、「外国語科」の改訂のポイントと併せて、英語による発信力の育成を図る4技能統合型の具体的な授業の展開例を紹介する。

1 学習指導要領「外国語科」改訂のポイント

新学習指導要領で示される英語教育の方向性は、現行と大きく変わらず、課題のある話すことと書くことによる発信力の育成が更に強調されている。

今回の改訂では、英語を使って「何ができるようになるか」ということが明確に設定され、領域ごとに目標を達成するための具体的な言語活動が示されている。

「英語コミュニケーション」Ⅰ～Ⅲは、日常的・社会的な話題について、五つの領域別及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、英語でコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に指導する科目である。授業では、単元ごとに設定した資質・能力を育成するために、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じた言語活動を行う必要がある。その際、言語活動と言語材料を効果的に関連付けながら指導していくことが重要となる。本稿では、現行のコミュニケーション英語Ⅱの教科書を使用して、生徒の学習に対するモチベーションを高め、4技能を統合的に活用させる授業実践例を紹介する。

- 「知識及び技能」（英語の特徴やきまりに関する事項）と「思考力・判断力・表現力等」（情報を整理しながら考えなどを形成し、伝え合ったりすることに関する事項）を一体的に育成する。
 - 従来の「4技能」を、聞くこと、読むこと、話すこと〔やりとり〕（複数の話者による伝え合い）、話すこと〔発表〕（一人の話者による連続した発話）、書くことの「5領域」とし、各領域において、「～することができるようにする」という目標とその実現のための具体的な言語活動を設定した。
 - 言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことを明記した。
 - 科目を、5領域を総合的に扱う「英語コミュニケーション」Ⅰ～Ⅲと主に話すことと書くことによる発信力を強化する「論理・表現」Ⅰ～Ⅲの2本立てとした。
 - 単語数は、従来の1800語程度から1800語～2500語程度（小・中・高で合わせると5000語程度）に増加した。
- 向後秀明, 「外国語改訂のポイント」, 『月刊高校教育』2018・6月号, 学事出版, pp.40-41 から引用

2 発信力重視の4技能統合型授業実践例

(1) 教材

BIG DIPPER English Communication II (数研出版)

Lesson 3 How Good is Your Memory

(2) 単元の目標

有名な暗記法や記憶・忘却のしくみについて扱った本文及び本文に関連した英文を応用して、読み取った内容やその内容に対する自分の考えを学習した語句や表現を積極的に活用しながら、伝えることができるようになる。

(3) 単元の学習計画 (計8時間)

次	主な学習活動
1	<p>本文の概要を捉える。</p> <p>① スキーマの活性化 教科書の絵やグラフ等を基に教師のオーラルイントロダクションを行う。</p> <p>② スキミング, スキャニングで概要を把握する。</p>
2	<p>本文の細部を焦点化する。</p> <p>① 語彙 (ワード・フライズ・ハント)</p>
3	<p>② 文法・語法フォーカス</p>
4	<p>③ チャンク・リーディング</p>
5	<p>④ チャンク・トランスレーション</p>
6	<p>表現活動を行う。</p> <p>① 本文に関連した英文を基にインフォメーションギャップ等の言語活動を行う。</p>
7	<p>② 「AIの時代に、人間は何を記憶し学習していくべきか。」について、ディスカッションを行う。</p>
8	<p>または、</p> <p>ディベート：「AIの時代に、人間は、知識ではなく知識を活用する力だけ身に付けるべきだ」</p>

(4) 本時の指導計画 (6限目)

教師が、本やインターネット等で探した三つの異なる暗記法 (Example sentence method

【資料】、Visualizing method, Mind Map method) に関する英文を含むワークシートの準備をしておく。

※ (①~⑦はp. 3の図に対応)

<p>Small Talk (3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の英単語の覚え方についてペアで1分間伝え合う。
<p>Activity I</p> <p>Reading & Practice (20分)</p> <p>(クラスを3分割する)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分に割り当てられた暗記法に関する英文を読む。・・・① 3人のグループをつくり、自分たちの読んだ英文がどのような暗記法であるか確認する。・・・② 実際に英文に書いてある暗記法を使って単語を覚えてみる。・・・③
<p>Activity II</p> <p>Information Gap (25分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各々が実践した暗記法を他の暗記法に関する英文を読んだクラスメートに紹介するための準備をする。 ※ 説明に関する四つのキーワードを書く。・・・④ 異なる暗記法を学んだ生徒同士で3人のグループをつくる。 それぞれが実践した暗記法を、グループのメンバーにキーワードを見ながら具体例を交えて伝える。・・・⑤ 発表を聞いた後は、質問をする。⑥ 発表内容について感想や意見を書く。⑦
<p>Wrap-up (2分)</p> <p>教師のフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> 次回の予告 (ディスカッションを行うこと) と課題の指示を行う。

指導計画 (第6次) で取り上げた言語活動は、学習指導要領の中で、「読むこと」の言語活動の統合的な活動として以下のように例示されている。

- 読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う。
- 読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う。
- 読み取った内容について、質疑応答したり意見や感想を伝え合ったりする。
- まとめた概要や要点、詳細を基に解決策を考え、話したり書いたりして伝え合う。

ここでは、本時のワークシートの一部 (Example sentence method用) を紹介する。

Example sentence method

Writing your own example sentences helps you to remember things easily. Do you find it difficult to memorize English words? Do you want to know effective ways to remember them? Then, you should try the “Example sentence method”.

To begin with, choose an English word which you can't remember. Let's say you can't remember the word “struggle”. Then, look it up in your dictionary. You will find example sentences such as “The thief struggled to get free from the police officer”. Lastly, change some words to make them relatable to you. In other words, make the sentence personal and funny. For instance, you can rewrite the example sentence like “Our English teacher struggled to get free from an octopus.” Can you imagine that situation? This method surely helps you to remember words easily. Why don't you try it?

The thief *struggled* to get free from the police.



Our English teacher *struggled* to get free from an octopus.

Try the “Example sentence method”!

Make your own example sentences!

sensitive	He is very <i>sensitive</i> about his looks.
obvious	It is <i>obvious</i> that Jane's opinion is right.
boast	Mike <i>boasts</i> that his son is very smart.

Introduce “Example sentence method” to your classmates!

Choose four keywords from the passage to introduce the “Example sentence method”!

Learn other methods from your classmates!

Write the features of other methods step by step!

Visualizing method	presenter ()
First step	
Second step	
Third step	
Mind map method	presenter ()
First step	
Second step	
Third step	

Give some comments to presenters!

【資料】ワークシート (①Example sentence method用)

※ 本時の指導計画とワークシートについては、県立鹿屋高等学校 上玉利 卓磨 教諭の実践を基に作成。

Reading

- ① 教科書の既習レッスンと関連する英文を読む。

Speaking

Listening

- ② グループで、読み取った内容について確認する。

- ③ 読み取った内容を基に、実践する。

- ④ 四つのキーワードを抜き出す。(説明の準備)

Speaking

Listening

- ⑤ キーワードを基に読み取った内容を相手に伝える。

- ⑥ 聞いた内容をメモにとり、質問する。

Writing

- ⑦ 説明を受けた内容について相手のカードに感想や意見を書く。

「話すこと [やり取り]」の活動で必要となるのは、十分な情報である。生徒たちは、限られた情報だけでは、十分なやり取りができないため、教師が、教科書以外に生徒が活用できる新たな情報を与えることも必要となる。また、まずはペアワークや少人数のグループワークで、話すことに慣れさせてオーラルプロダクションの質が高まっていくように指導しながら、全体の前で発表させるプロセスが大事である。さらに、メモしたキーワードとなる単語を見ながら話すことは、即興でやり取りをできる力にもつながっていく。このように、読んだことや聞いたことを生かして発信する活動を日常的に展開するには、できるだけ多くの英語に触れ、多くの英語を使う機会を与えることが大切である。

新学習指導要領では、外国語科のどの科目においても日常的な話題と社会的な話題を扱う。社会的な話題とは、広く国内外で起こっている事象など社会で起こっている出来事や問題に関わるものであり、生徒にとって興味・関心のある話題を取り上げながら、徐々に時事的な話題や学術的な話題で、より抽象度が高い内容や詳細で具体的な情報を扱っていくようにしたい。言語活動の例としては、単元の最後にディスカッションやディベートを行うことなどが考えられる。

3 指導上の留意すべき点

学習指導要領解説では、領域別の目標及び言語活動それぞれにおける支援について明記してある。授業で扱う内容が高度化・複雑化していく際は、生徒の実態に応じて、次のような支援が必要となる。

- ① 話す速度を落としたり、一度にたくさんの情報を伝えるのではなく分けて伝えたりする。(聞くこと)
- ② 理解が難しい語彙や表現が含まれている場合に簡単なものに書き換える。(読むこと)
- ③ 対話の例を示すために教師が実際のやり取りを見せる。(話すこと [やり取り])
- ④ 発表の事前準備としてグループで話し合わせたり、アウトラインを書かせたりする。(話すこと [発表])
- ⑤ 書く活動を行うに当たって有用な語彙や表現を示す。(書くこと)

4 教員に求められる力

学校の授業で大事なことは、生徒の英語学習に対するモチベーションを上げて、学び方を教え、自律的学習者を育てることである。したがって、学校で様々な言語活動を通して、生徒に英語力をつけていくためには、授業内外で、教師自身が生徒のモデルになるように自律的学習者であるべきことはいうまでもない。特に、英語で英語の授業を行うためには、生徒の実態に合わせて、生徒が理解できる英語にパラフレーズする力が求められる。さらに、様々なレベルの言語活動、特にディスカッションやディベート等においては、教師自身が自ら経験していなければ、生徒のつまずきを想定しながら授業の流れ自体をシミュレーションして授業計画を立てることが難しくなる。学校内外で、教員同士で学び合いながら、言語活動そのものを経験し、授業実践を積み重ねてもらいたい。

—引用・参考文献—

- 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成30年3月
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』平成30年7月
- 『月刊高校教育6月号』平成30年6月、学事出版
- 和泉伸一著『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業』～生徒の主体性を伸ばす授業の提案～平成28年4月、アルク

(教科教育研修課 内園 優子)